

令和元年 9 月 5 日
2018・2019 会議室

令和元年第 17 回 立川市教育委員会定例会

立川市教育委員会

令和元年第17回立川市教育委員会定例会

1 日 時 令和元年9月5日(木)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 2時35分

2 場 所 208・209会議室

3 出席者

教育長 小町 邦彦

教育委員 松野 登 田中 健一

伊藤 憲春 嶋田 敦子

署名委員 伊藤 憲春

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 大野 茂 教育総務課長 庄司 康洋

指導課長 前田 元 統括指導主事 寺田 良太

統括指導主事 川崎 淳子 学校給食課長 南 彰彦

生涯学習推進センター長 五十嵐 誠 図書館長 池田 朋之

指導主事 斎藤 慎司

5 会議に出席した事務局の職員

教育総務課庶務係 笹原 康司 井田 容子

案 件

1 議案

- (1) 議案第16号 教育委員会の点検・評価について
- (2) 議案第17号 小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について
(諮問)

2 報告

- (1) 平成31年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について

3 その他

令和元年第17回立川市教育委員会定例会議事日程

令和元年9月5日

208・209会議室

1 議案

- (1) 議案第16号 教育委員会の点検・評価について
- (2) 議案第17号 小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について
(諮問)

2 報告

- (1) 平成31年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について

3 その他

◎開会の辞

- 小町教育長 ただいまから、令和元年第17回立川市教育委員会定例会を開催いたします。署名委員に伊藤委員、お願いいたします。
- 伊藤委員 はい。承知しました。
- 小町教育長 次に、議事内容の確認を行います。本日は、議案2件、報告1件でございます。その他は議事進行過程で確認をいたします。
- 次に、出席者の確認を行います。大野教育部長、お願いいたします。
- 大野教育部長 本日、第17回立川市教育委員会定例会への出席管理職についてでございますが、教育部長、教育総務課長、指導課長、川崎統括指導主事、寺田統括指導主事、学校給食課長、生涯学習推進センター長、図書館長でございます。

◎議 案

(1) 議案第16号 教育委員会の点検・評価について

- 小町教育長 それでは1議案(1)議案第16号、教育委員会の点検・評価について、を議題とします。
- 庄司教育総務課長、説明をお願いいたします。
- 庄司教育総務課長 それでは、議案第16号につきまして、説明をいたします。
- 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書でございますが、こちらは地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況につきまして点検・評価し、その内容をまとめたものでございます。
- 点検・評価の対象につきましては、平成30年度における当教育委員会の6活動及び平成27年度を初年度とした教育委員会所管の4つの分野別個別計画でございます第2次学校教育振興基本計画、第5次生涯学習推進計画、第2次図書館基本計画及び第3次子ども読書活動推進計画に掲げられている施策から抽出しました20施策になります。
- 点検・評価につきましては、教育委員会が自ら点検を行うとともに、それぞれの専門分野の知見を有する学識経験者3名の方による外部評価も実施しております。
- 5段階評価の内容でございますが、70ページにございますとおり、教育委員会活動6項目のうち1つを除きほかはA評価となりました。施策20項目のうちA評価は8つ、B評価は12で、今回はC評価はございませんでした。
- なお、前回ご協議いただきました後、6ページにあるのですが、「次期学習指導要領」という言葉があったのですが、「新学習指導要領」と替えるなど、3カ所について文言の統一を図りました。正しい言葉で合わせました。それとともに、50ページの表の間に、別紙でご用意してありますけれども写真を入れて、事業が分かるようにして空白のページ

をなくさせていただきました。これはご了承いただければと思います。そして最終的に今回、議案ということで提出をさせていただきました。

最後の審議の経過でございますが、本年4月の第8回教育委員会定例会におきまして、評価に関する基本方針をご協議いただきまして、以降、6回にわたり本定例会でご協議をいただきました。

今後につきましては、10月9日に開催予定の市議会の文教委員会でも報告する予定となっております。

説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

○小町教育長 説明ありがとうございました。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

田中委員。

○田中委員 私のほうから感想と提言を申し上げたいと思います。

この点検・評価については、平成20年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づいて実施されたんですね。私事で大変恐縮ですが、私が初めて教育委員になって、初めて点検・評価をしたんですね。それが今年で11回目、当時と比べますと何というのでしょうか、この教育委員会活動の点検・評価6施策、また教育委員会施策の点検・評価が19施策、内容、質ともに非常にしっかりした、また多方面にわたって非常によく整理されていて、本当に格別の感があります。これも小町教育長のリーダーシップのおかげかなと改めて感謝申し上げます。一度機会がありましたら平成20年度と今回出された点検・評価と比べていただくと、よく分かりますので。文面にしても実績についてのデータにしても、小町教育長がよくここまで一つ一つきちんとご覧になりながら改善されてこられたこと、本当にうれしい気持ちでいっぱいです。

その上で私のほうから提言として1点だけ申し上げたいのですが、29年度と比較しますと30年度の評価は、施策でBだったものがAになっているものが4施策あるんですね。これは事務局の皆さんが非常に努力された成果であるということで、私もうれしく思います。なお、A評価からB評価に下がった施策も実はあるんですね。これが3施策ほどございます。

したがって、事務局の皆さんにご苦勞をおかけしますが、このA評価からB評価に下がった3施策について、もう一度ご覧になりながら、何をどう改善すべきか、ご努力いただきながら来年に向けて取り組んでいただければありがたいと思います。もう既に今年度スタートしてこれで6ヵ月が終わって、残すあと6ヵ月なわけですが、その中で様々ご苦勞をおかけしますが、なお一層ご努力いただくようお願い申し上げます。

○小町教育長 庄司教育総務課長。

○庄司教育総務課長 ご意見ありがとうございます。ありがたく承らせていただきます。

評価が下がったものは確かに3つございまして、例えばでございますけれども、教育委員会の会議の公開等に関する事ということで、会議録の公開が2ヵ月以上かかってし

まっているということがあったのですが、こちらのほう今見直しをしまして、今、2ヵ月切っています。2ヵ月切った形で公開ができるように担当の方で努力をしまして、今ほぼ2ヵ月を切った形で会議録も公開できるようになりましたので、できることからまずフィードバックして、今回の評価から改善をして取り組めるところはやっておりますので、来年度はきっとこの評価が上がってくるかなと思っているところでございます。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 本当に一つ一つご覧いただきながら、そうして迅速に対応していただけること、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 私もこれを見ながら、また田中委員からの話を聞きながら雑談をしたんですが、やはりこの評価というのは、私たちの、特に事務局の皆さんの努力によって教育行政の課題、これが一步一步改善され前に進んできた、そういう成果を示すものだなんて話をしたんですね。

そういう意味では、市民にとって一番期待をする、「どうなってるの」という疑問に対してきちっと答えていく、そして安心させていくような資料になるのであろうなと思いました。その点から、私はもう一度この目的・目標、主な取組、この辺りをもっとこう吟味しながら、つまり具体化させながら、それに応えるような資料、説得できるような、なるほどという資料を備えていただければありがたいなと思います。

やはりこういう資料を整えるということになりますと、昨年度使ったものにすぐ数字を変えてとやりがちなんです、やはりそこは、今言ったように教育行政に係わる、特に事務局の皆さん方が頑張った成果を表していく、こういったものとして考えるならば、もうちょっとそこは、これからもっと市民にも歓迎されるようなものにしていくべきではないのかな。現になっております、なっておりますが、これからもっとそういう面を強く出していったらいいなと思っております。

以上、感想であります。ありがとうございます。

○小町教育長 庄司教育総務課長。

○庄司教育総務課長 まさに松野委員がおっしゃるとおりでございます、直結的に評価が分かるような指標であるとか実績だとかというのは、もう前々からご指摘をいただいているとおりでございます。継続するために基本は前年度のベースのものをやっているところでございますが、できることからやっていきたいと思っています。

ただ、どうしても施策という大きな枠組みでございますので、それを全部、評価で、数字で見せていくとなると、量が多くなってしまいますので、どれをピックアップして載せるかというのは、継続的に検討していきたいなと思っています。また、特に来年度の評価は計画の最終年でございますので、その辺も踏まえて考えていきたいなと思います。

○小町教育長 田中委員。

○田中委員 今、松野委員から発言があったんですが、実は先ほど二人で話しながら、一番気にしているところは、前年度の評価の文面とあまり変わらないということを非常に気にしているんですね。

なぜかという、市民の皆さんがそれをご覧になって、なんだ去年と変わらないんじゃないかと、これ一体どうなっているんだろうと、そういうある面では信頼関係が損なわれるといけないな、一生懸命事務局の方が出しているわけですから、できれば前年度の、こうやって成果あるいは今後の方向性も含めて少し改善したということで、前年度の文面から一步進めた形でやっていただけると、市民の皆さんが、ああ、こういうことをしたんだなということがお分かりになるかな、そんなことを松野委員と私のほうで文面も含めて拝見させていただきながら、少しでも伝えたい、そんな思いで今、松野委員も発言されたと思うんですね。よろしく願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。議案第16号、教育委員会の点検・評価について、は提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第16号、教育委員会の点検・評価について、は承認されました。

◎議 案

(2) 議案第17号 小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について (諮問)

○小町教育長 続きまして、1議案(2)議案第17号、小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について(諮問)、を議題といたします。

南学校給食課長、説明をお願いいたします。

○南学校給食課長 それでは、議案第17号、小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について(諮問)、についてご説明いたします。

本議案につきましては、立川市学校給食運営審議会条例施行規則第2条第2号の規定により諮問するものです。こちらは給食費に関することとなります。

学校給食の実施にあたりましては、施設、設備、運営などの費用は市が負担いたしまして、食材料につきましては保護者が給食費として負担することが学校給食法に定められております。学校給食につきましては、児童の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた食事を提供することにより、児童の健康増進を図るとともに、正しい食習慣の形成、好ましい人間関係の育成等「食育」の分野も担い、教育活動の一環として実施しているところとなります。

このような中、来年度、令和2年度からですが小学校の新学習指導要領の完全実施に

伴いまして、英語の教科化などに対応するため、年間の授業日数を増やすとともに、給食実施回数ですが、現在年間 190 回やっておりますが 195 回、5 回増やすことといたしました。

つきましては、立川市の将来を担う小学生に対しまして、安全・安心で栄養バランスのとれた給食水準を維持するため、授業日数増加に伴います小学校給食費の改定について、諮問文案のとおり、立川市学校給食運営審議会に諮問してまいりたいと考えております。

よろしくご審議くださるようお願いいたします。説明は以上になります。

○小町教育長 説明ありがとうございます。

これより質疑に移ります。説明内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 今、課長のほうからも説明がございましたように、来年度から新学習指導要領の完全実施と。それに伴って英語の教科化、5・6年生が70時間になるんですね。そうすると年間の授業時数が増えてきますので、そういう中で1,015時間ということになります。あと、ご承知のように3・4年生が英語活動ということになりますので、その中で35時間確保する。それ以外にご承知のように各学校、小中学校もそうですが、夏の長期休業の中で4週目の月曜日から既に授業を開始しているんですね。

それぞれの学校が取り組みをしながら、何とか子どものためにということで取り組んでいる中で、今回課長から説明があったように年間190回から195回に増やすことは賢明な対応だだと思います。1食分を5回増やすということでその単価分を上乘せする必要が当然出てまいります。その意味では今の給食水準を維持するためには小学校給食費の改定の諮問、適切であると。私はもう少し時期を早めてもよかったのではないかと、そんな思いでいっぱいです。どうぞご説明の方向でお進めいただきたいと思いますので、よろしくようお願いいたします。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 田中委員とも重複いたしますが、これはとても現場が助かると思います。今年も学校の教育課程を見てもみますと、だいたい夏休みに3日あるいは5日登校日を増やして、ある学校は1,031時間、もうひとつの学校は1,025時間、これは30時間の余剰をあげてその時間の確保をしておりますが、これで5日間給食が増えるということは、逆にこれ現場にとっては、授業時数としては余裕が出てくる。つまり、今、大変現場でも働き方改革あるいは子どもたちの活動に、何だかこうゆったり感がない。こういうことに、これだけ余裕がありますと、ずいぶん役立つのではないかとというふうに思います。是非やってほしいと思います。是非、諮問してください。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 私も、回数が増えるということは親としてもとても助かることなので、もっと増えてもいいぐらいだなと思いますけれども、給食費が改定されるということは、そ

の回数分が、5 回分の費用が上乗せされるということによろしいでしょうか。

○小町教育長 南学校給食課長。

○南学校給食課長 ご質問いただいたとおりですが、今回は実施回数を増やすということになりますので、基本は5 回分を増やすという形で考えています。また、給食費を決めるのは運営審議会になるのですが、喫食単価があるのですが、その5 回分をプラスしてという形になります。そこの単価が増えないように諮問をする予定になっていますので、こちらで審議していただく形になります。実施回数分と考えていただければ結構だと思います。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 分かりました。ありがとうございました。

○小町教育長 ほかがございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。それではお諮りいたします。1 議案(2)議案第 17 号、小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について(諮問)、については提案のとおり承認することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」との声あり〕

○小町教育長 異議なしと認めます。よって、議案第 17 号、小学校給食の実施回数増に伴う小学校給食費の改定について(諮問)、は承認されました。

◎報 告

(1) 平成 3 1 年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について

○小町教育長 続きまして、2 報告(1)平成 31 年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、を議題といたします。

前田指導課長、説明をお願いします。

○前田指導課長 それでは、去る 7 月 20 日、21 日に行われました平成 31 年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、ご説明いたします。

このサミットにつきましては、小町教育長を筆頭とする教育委員会の引率の面々、また、第八中学校の水越校長先生をはじめとする中学校の引率の先生方の協力を得て行うことができました。これから詳細な説明を差し上げますが、立川市の中学生たちの能力の高さ、それから、子どもたちの笑顔のすばらしさというのを改めて認識できるような機会になりました。

詳しい説明につきましては、今回の引率の担当の総責任者であります斎藤指導主事より申し上げます。よろしくをお願いします。

○斎藤指導主事 それでは、ただいまご紹介にあずかりました指導課指導主事の斎藤と申します。今年度、立川市・大町市姉妹都市交流中学生サミットの担当をさせていただきました。

本日は資料2点をご用意させていただきました。A3判の概要とスライドを印刷したものです。私のほうからはスライドを用いてプレゼンテーションと、サミットが終わった3日後、7月24日に大町市のローカル番組で実際にこの特集をされましたので、この動画をご覧いただきたいと思っております。

それでは、まず前のテレビをご覧いただき、スライドを観ていただければと思います。

これより、平成31年度第5回立川市・大町市姉妹都市中学生サミットについて、簡単にご説明させていただきます。

今年度も立川市の全9中学校から生徒会役員が2名ずつ参加しました。

テーマは、「あなたも英語のツアーガイド」です。今回の取組では全2回の実行委員会、事前学習会を行いました。英語で、というのが大きなテーマでしたので、オールイングリッシュで事前学習を行いました。

多くの準備をして、7月20日土曜日には立川駅に集合し、出発式を経て、早い時間だったのですが、多くの、校長先生、副校長先生、保護者の見送りの中、出発いたしました。朝早かったにも関わらず生徒たちはわくわくして、元気いっぱい車内で過ごしました。

大町市に到着したときには「ゆーぷる木崎湖」という温泉施設に案内していただき、ここではまず対面式を行いました。対面式では緊張しながら、まずお互いの自己紹介から始まりました。テーマが英語でのツアーガイドということもあり、皆さん挨拶を最初だけ英語でされていました。

これが名物の「ダムカレー」、駅前にもお店はあったんですけども、地元の生徒に聞いたところ、私たちも食べませんというふうには言っていました。全員完食でしたというふうにご報告はさせていただいたのですが、女子生徒にはやはり多くて、ボリューム満点のダムカレーでした。

ここからは実際に生徒たちがグループに分かれて、4つのアクティビティを体験してきましたので、このご報告をさせていただきます。

この最初のアクティビティはスポーツクライミングです。最近ニュースでよくボルダリングという名称で拝見することがありますけれども、実際に体験された方いらっしゃいますか。なかなか難しい、ちょっと気軽に取り組むには難しいスポーツだなというふうに思います。ここでは高さ12メートルの壁を使っています、真下に立つとすごく圧巻ですね。迫力満点の壁です。ホールドと呼ばれる取っ手のようなものに手や足を掛けて登っていきます。生徒たちは3時間登りっぱなしでしたので、最終的には手足ががくがくになっていました。

2つ目に、カヌー体験です。カヌーもなかなか体験することは難しいかなと思いますが、どうでしょうカヌー、漕がれた方はいらっしゃいますか。30分ほどで生徒たちはみな上手に漕げるようになり、右下の写真、木々がしなるような所を下るような幻想的なコースを漕ぐこともできました。対岸に渡り、きれいな水の中にいる小魚を観察したり、

水切りをしたりして休憩をしながら体験をいたしました。最後には、左下の写真です、サップと呼ばれる立ち漕ぎのカヌーと、2人以上で漕ぐカヌー、タイミングを合わせなければ難しいんですけども、このようなカヌーを体験させていただきました。最後には集合写真、近くに寄るといのはすごく難しいんですけども、集合写真を撮れるほど上達することができました。

次に、そば打ち体験です。これは実際に体験された方、これは多いかなというふうには思います。ここでは実際にそば粉から練って、そばを打ちました。普段、料理を手伝っている生徒はすごく手際がよかったですけれども、そうでない生徒は、なかなか難しかったという感想をいただきました。夕食用にパックに詰めて、残りをその場で食べさせていただきました。感想は後ほどローカル番組の中で出てきますので、そでご覧ください。

最後に、岩魚つかみ体験です。小川の中に泳いでいる岩魚を素手でつかむものです。実際には軍手をして、すべり止めという形にはしていました。捕まえた後にはその場でさばいて、塩焼きにいたしました。左上の写真は、地元の野菜を味噌をつけて食べているところです。右下はジビエですね、のバーベキューも一緒にここで食べさせていただきました。ここは3時間食べ通しの体験というようなところでした。

夕食には、自分たちで打った「そば」と岩魚、こちらは揚げてあるものですが、夕食に出していただき全員で食べましたが、そば打ち体験と岩魚つかみの体験をした生徒はお弁当もあるんですけども、これすらも手がつけられないほど、食べるのがつらいというふうに言っていました。

その後、木崎湖夏期大学というところに移動しました。ここで宿泊をしたんですけども、その前にアクティビティについての発表を英語で行うということで、ALTにもここに来ていただいて、パソコンとにらめっこしながら夜遅くまで準備にとりかかりました。

ここからが2日目です。ここは大町第一中学校です。山々の麓にある学校ですが、お気づきかと思いますが校門がないんですね。地元の方が犬の散歩等でも入ってくるような地域に開かれた学校でした。左手に校舎があつて、校舎はすごくきれいで、どの教室にも電子黒板が入っている、そのような学校でした。

本番前にALTの監修の下、すごく厳しい演技指導を受けながら発表のリハーサルを行いました。

実際の発表の風景です。全て英語で進んでいき、質疑応答、ここは日本語だったんですけど、立川の生徒、ここですごく活躍してくれて、感想、質問、さらに大町を知りたいという気持ちをうかがうことができました。

最後にこの会場で食事をとりまして、普段の学校生活の話、2日間の体験の話など盛り上がっていました。まだこの時期7月20日は大町の生徒は学期中だったので、まだ明日学校なんだよというふうに悲しい顔をしている子も中にはいました。

最後には笑顔で見送ってくれました。泣いている生徒、中にはいまして、すごく充実した2日間だったというふうに。

この会場で撮った集合写真です。腕を頭の後ろで組むこのポーズは立川第七中学校の友野君が考えた山のポーズだそうです。全員でこのポーズで「おおまびょん」というかけ声で写真を撮りました。大町の生徒も仲良くなったんですけれども、もちろん立川の生徒たち自身も仲良くなって帰りました。事後学習の様子はここには入っていないんですけれども、みんなで和気あいあいと事後学習を行い、教育長の後ろにTシャツに寄せ書きをしたものがありまして、これを額に入れて遺産として残しております。後ほど明るくなったらご覧いただければと思います。ご静聴ありがとうございました。

それでは、準備の時間をいただいて、動画のほうをご覧いただければと思います。

(大町市ケーブルテレビ映像)

○齋藤指導主事 これ以上になります。ありがとうございました。

○小町教育長 ありがとうございます。

これより質疑に移ります。報告内容を踏まえ、ご質疑をお願いいたします。

はい、田中委員。

○田中委員 私のほうから感想と提言を申し上げたいと思います。

先ほど映像にも出てまいりましたように、清水市長が5年前に提案をされて、それを通しながらこの深い交流、バトンを引き継いでいくと。考えてみましたら、これが開始された当初と今日の映像を拝見して、本当にここまで内容の濃さ、質の高さ、レベルの向上については、本当に小町教育長がよくここまでリーダーシップを発揮してなさったなど感謝しております。

とりわけ子どもたちがスポーツライミングであったりカヌー体験であったり、岩魚のつかみ、そば打ち体験、こういう自然体験を通しながら、なおかつ大町の文化を学んでいる。その結果が子どもたちからも出ているように、出会いの大切さ、あるいは人間関係は時間じゃない、命のありがたみと、そんな成果が出ているんだなと思いますね。まさにこれは新学習指導要領の主体的・対話的で深い学び、その結果として人間力あるいは社会力、それを高めた成果であると、改めて小町教育長はじめ関係の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございます。

その上で私から提案として申し上げたいと思います。せっかくこれだけの映像があるのですから、各小中学校はもとより、できれば10月でしたでしょうか総合教育会議、そこでも紹介をしていただけるとうれしいですね。あと2月に教育フォーラムがありますから、その場でも是非ご紹介いただいたらどうでしょうか。またご検討ください。また、ほかの機関の方々にも是非ご紹介いただけると、このすばらしい立川と大町のサミットの取り組みの良さがお分かりいただければと思います。改めて、聞いたことは忘れ、見たことは憶え、体験したことは身に付くと、それが見事に成果として表れていると思いま

すね。

もう1つの提言としては、今回、サミットを通しながら相当英語に力を入れていましたね。挨拶にしろ、発表の中でもそうでした。ALTの人含めて力を入れていると。今度立川でお会いするときは、横田基地がごぞいますよね。あそこの留学体験というかそれをなさって、大町の子もそうですし、立川の子どもたちもそうですが、是非、横田基地の関係の子どもたちとの交流ができればいいんじゃないか、まさに生きた学びができるのではないかと、そのように期待しているところです。

あわせて、大町と立川の両校の子どもたちがもうちょっと主体的に話しながら、今何が課題なのか、何をどうしたいのか、その共通のものを取り上げながら、それぞれ持ち帰って生徒会で話し合っ、次のサミットのときにそれをお互いに紹介し合う、そんなふうにしていくと、まさに清水市長がおっしゃるバトンをタッチしながら継続していくと、そんなことになるのではないかと。あまり適切な例ではないですが例えば今中学生の問題になっているSNS炎上、これは大きな問題になっているわけですね。それについて大町の子もたち、あるいは立川の子もたちが、それぞれ生徒会に持ち帰って、何をどうしたらいいのか、またどうすることが賢明なのか、その案を話し合いながら翌年のサミットでそれぞれ紹介し合うというのも一つの方法かなと思っの提言でございます。

拝見して、こちらが本当にどきどき、わくわくしました。一緒について行きたい、そんな思いでいっぱいです。ありがとうございました。

○小町教育長 ほか、ございますか。松野委員。

○松野委員 感想であります。本当に充実した大町訪問でしたね。やはり大町の一番の特徴というか自然を生かした体験から、子どもたちはみんな人とつながることの大事さを感じ取っていますよね。これは向こうの魅力を楽しみながら、なおかつ友だちと仲良くなっていく。これ、もっと広げる、あるいはもっとより多くの中学生のものにできないかなというのが私の願いであります、やはり代表だけですからね、たぶんこういうことを周りの中学生も、ああ行ってみたいと思うでしょうね。

もう1つに、私これを見たときに、移動教室のあり方を考えたときに、移動教室はそれぞれ自分たちがいろいろなものを調べたり体験をしながら学んでいくんですけども、地元の人とのつながりって、いまいち希薄ですよ。これ考えてみたら、子どもたちも地元にいるんな名所旧跡、あるいは自然、そういう体験の活動を通しながらも非常に人とのつながりで何か魅力を感じるといっ、そしてまた自分がすごく成長したような気持ちになっていきますよね。もちろん人とのつながりをもつことは大事なんでしょうけれど、こういうことを考えると、映像を見ながら移動教室のあり方についても各小中学校の先生方に考えていただきたいなというふうに思いますね。どういうアイディアにできるか課題なんですよけれども、せつかくの5年前からの中学生の交流、どう広げていったらいいでしょうね、その辺り何かお考えがありましたら、なければ結構でござい

ます。

○小町教育長 前田指導課長、お願いします。

○前田指導課長 田中委員、松野委員からご提案、ご提言等、ご感想もいただいたところでございますが、来年度が立川にお招きする機会になります。来年度は非常に特殊な年に当たりまして、オリンピック・パラリンピックが東京で開催される年となります。そういったことで会場や日程をどうするかという部分から今、来年度に向けた検討を進めているところであります。英語を中心としつつも、自然体験は大町市のほうでさせていただいているわけですので、立川にお招きする良さ、より大町と立川のまちが抱える課題解決につながるような、そういう企画というのを考え、中学生ならではの若々しい考えを持ってその課題に立ち向かっていく、そういうふうな企画ができないかというところで今、指導課の方では頭を悩ませているところです。

ただ、英語を中心とした取組というのは、私も今回拝見しまして、非常に子どもたちの学習に対して違う側面で意味があるものだなというふう感じたところでございます。英語を使うからこそ、おもわずその2日間の中で会話がなかなかできなかったお友だちに、つい、「どういうふうに言ったらいいの」とこう言っていたりするんですね。その中で子ども同士の関係性は深くなっている。そういった意味においても英語を活用するというのは非常に有効である、ここを中心としながらどういったものができるのかというのを検討していきたいと思っています。

また、移動教室のあり方についても、過日、指導課のほうで中学校長会と共に大町市のほうに実践に行かせていただきました。先だっでご案内申し上げたとおり中学校数が違いますので、中学生同士の直接交流となりますと、なかなか難しい部分が出てくるかもしれませんが、ただ、人との交流というところにスポットをあてたらどのようなカリキュラムが組めるかというのは、中学校長会と連携して考えていきたいなと思っています。またあわせて、総合教育会議等の場でご報告するチャンスがあるのかどうか、その機会も探りながら、もしあるようであれば、今回のようなご報告させていただければと考えておるところでございます。

○小町教育長 松野委員。

○松野委員 ありがとうございます。期待しております。

○小町教育長 ほか、ございますか。伊藤委員。

○伊藤委員 いろいろご準備ありがとうございます。毎年この発表を見させていただいて、心がわくわくしながら温かい気持ちになるのは毎年のことですけれども、こういう体験を少しでも多くの方に、といっても、あちらにお伺いするときは大人数では難しいということもありますので、例えば立川にお呼びする場合に、中1とかという方で、是非そういうところに出てみたいという方が一回出て、また次の年にというような経験を積むことによって、よりいいところができるかなというような気もしながら拝見していました。

○小町教育長 ほか、ございますか。嶋田委員。

○嶋田委員 本当に見させていただいて、すごくいい体験をさせていただいて、今、自然災害とかSNSの話題とか心配なことが様々ありますけれども、中学生がこんな実体験を通して大きく成長していってくれるのはとても頼もしいことだなと思って、本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

私も先生方と同じように、もっとたくさんの生徒に体験させてあげられたらいいなと思いつつ見させていただきました。今回、生徒会の役員の各学校2名ということでしたけれども、もう少し、公募にするとか何か募集の仕方があったらいいかなとちょっと思ったんですけれども、いかがでしょうか。

○小町教育長 前田指導課長。

○前田指導課長 この大町市との姉妹都市の中学生サミットに関しては、双方の生徒会の役員同士が集まるというような形を現在のところとらせていただいているところです。実際に来年度お迎えするにあたってときには、市内での活動になりますので、立川市の中学生に関しては比較的参加しやすい側面もありますので、例えば生徒会の役員を中心としながら、その2名と限らずに各生徒会の実行委員が少しでも参加しやすいような、そういった声かけというのは中学校にできたらというようなことも含めて考えていけたらと思っています。

○小町教育長 嶋田委員。

○嶋田委員 ありがとうございます。ご検討よろしく申し上げます。

あと、言い忘れたのですが、英語を使ってというのがやっぱり普通じゃないというか、とてもおもしろいところだなと思いますので、是非、継続していただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。

○小町教育長 私も同行しましたのでお話をさせていただこうかと思っています。

今回は新しい学びがございまして、限られた時間の中でなかなか出てこなかったんですけれども、先ほどちらっと斎藤指導主事のほうから、子どもたちが最後の意見交換のところで積極的になってくれた、立川の子どもたち大活躍ということで。最初おとなしい子がいたんですよ。その子がクライミングの体験をして、1回目で12メートル登りきったんですね。それでもうみんな大拍手で、その子も登れると思っていなかったと思うんですけれども、意外と、自分の潜在的な能力に気がついたみたいで、とっても相性が良かったみたいで、すごい自信を持ったんじゃないかなと思うんですね。その子を私注目して見ていたら、最後、意見交換のときにみんなシーンとして意見交換で意見といってもなかなか手を挙げてにくい雰囲気ですよ、周りに偉い人ばかりいて、大人ばかりで。でもその子がまず口火で積極的に手を挙げて、しっかりとした意見を言っていた姿を見て、本当に子どもたちは一泊二日短いですが、しっかり自分の中で変わることができるエネルギーに変えている、その子どもの可能性というのは改めてまさに時間じゃないんだと子どもが自ら話していたとおり、時間じゃないんだなという思いで私

も学ばせていただいたところがございます。

それから、今回の場面で出ていなかったんですけども、嶋田委員おっしゃったように英語でプレゼンというのは前回の立川での成果を踏襲してということでやって、今回体験したことを英語で、前回は立川の名所のいいところを見つけてそれを紹介する。今度は自分がアクティブに体験したことを英語で、ツアーコンダクターとなって海外の方に伝えるという、ちょっと切り口を変えてきていまして、それはとても子どもたちにとっては新鮮だったのではないかと。まさに自分が体験したことを日本語でもなかなか伝えるのは難しいですけども、体験していない人に体験したことを伝えるというのは、それを英語で、まさにチャレンジのことだったんですけど見事にそれも。幾つか例示を出してくればよかったなと思うんですけども、そこでも本当に可能性を感じました。

やはり英語というのは、自分の思いだとか考えだとか体験したことを伝えるコミュニケーションの道具だなというのを子ども自ら体験したのではないかと。単なる教科書の教科ではなくてコミュニケーションの道具だと。海外の方、ALTがいてそれにちゃんと通じていましたので、そういった意味でそれを体感したのではないかと考えております。

そういうことを通しまして、これからどうするかという話もあるんですけども、実は信濃の木崎湖の夏期大学というところで合宿というか、本当に何十畳敷きというところでみんな楽しく、そこに男子は布団をばあ一つと並べて、女子は個室ですがそちらでということで分かれて。その施設が大正6年、1917年に信濃の夏期大学ということで、いわゆる生涯学習ですね、今の言葉で言うと。先生方や市民が自分たちで合宿して、夏の間10日間ぐらいですけども、本当に日本の一流の哲学者であったり、文学者であったり、政治学者だったり、いろんな講師がまさに手弁当で来てお教えになって、それをみんなで聞きあって、運営もみんなが力を出してボランティアで運営するというのが伝統としてもう103回目なんですね。103年続いているわけです。

その施設で、本当に木造のそういう施設ですけども、それを町として維持してきているという、まさに学びを町の真ん中に置いている、大人も学ぶ、それを見た子どもも学ぶという、立派にできている施設の中で子どもたちが一泊二日を過ごさせていただいた、とても象徴的で、子どもにとってもその場所がどういう場所かというのをインプットして帰られたのではないかと思います。そういった意味で大町から学ぶことは多いのかなと思っています。

もう1つはALT、立川市の場合は委託ですけども、向こうは直接雇用でやっています。ALTが単なる英語の補助じゃなくて、教育者として子どもたちを導くという、とてもそこに長けているなという思いで私も見ておりました。まさにこれから必要なのはそういった部分ではないかなという、それを学ばせていただいたこととさせていただきます。

今後に関しましては、いま指導課長が申し上げたとおり、昨年、立川市で名所旧跡とか立川の名物とか、いいところを英語でプレゼン、今回は大町で自分たちが体験したことを英語でプレゼンするのをやったんですけども、では次どうするかという話の中で、

実は大町も町の課題を抱えていて、商店街を歩いて帰ってきたんですけども、一人も出会わなかったんですね。日曜日、駅からだれも出会わない、町の人にも出会わないし観光客とも出会わなかったということ、かなり観光的にも、町の振興的にも、産業的にも大変に厳しい状況になっていることは事実です。

そういったことを子どもたちなりに受け取っているはずですね。それを自分たちなりに英語で今度は深めてみるなんていうこともとても大事なのではないかと思いますし、逆に立川市に振り返って考えてみると、今コミュニティの希薄化が問題になっていて、自治会もどんどん数が減ってしまっている、いろんな犯罪も多くなっている、孤独死というのも多くなっている。そんな状況の中で都市の課題、コミュニティの希薄化の課題も立川市、実はあるんですね。そういったことを子どもたちなりにそういったものもしっかりと学んでみて、これをプレゼン、伝えてみる、提言してみるというのは、とても今後のまさに立川市民科で取り組んでいることが英語バージョンでできるのではないかなという、あの子どもたちだったらできるなという私は確信を持っておりますので、そんなことをまた大町とも相談しながら、来年のテーマは決めていきたいなと思った次第でございます。

いずれにしても本当に学ぶことの多い、私5回目ですけど学ぶことの多い大町との交流になりました。今後大いに期待できる点なども含めまして私からの感想にさせていただきます。どうもありがとうございました。

○小町教育長 ほか、ございますか。よろしいですか。

〔「はい」との声あり〕

○小町教育長 ないようでございます。これで報告(1)平成31年度「立川市・大町市姉妹都市中学生サミット」について、の報告及び質疑を終了いたします。

○小町教育長 次に、その他に入ります。

その他、ございますか。

〔「ありません」との声あり〕

◎閉会の辞

○小町教育長 それでは次回の日程を確認いたします。次回、第18回立川市教育委員会定例会は令和元年9月12日木曜日、午後1時から302会議室で開催いたします。

これをもちまして、令和元年第17回立川市教育委員会定例会を終了いたします。

午後2時35分

署名委員

.....

教育長